

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「データサイエンス入門」 ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス入門」 ・確率分布、正規分布、独立同一分布「データサイエンス入門」
	1-7	・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)「プログラミング基礎」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「プログラミング基礎」 ・ソートアルゴリズム、探索アルゴリズム「プログラミング基礎」
	2-2	・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンス入門」 ・構造化データ、非構造化データ「データサイエンス入門」 ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「データサイエンス入門」
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型、変数、代入、四則演算、論理演算「プログラミング基礎」 ・配列、関数、引数、戻り値「プログラミング基礎」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング基礎」
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society 5.0「ITリテラシー」 ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データサイエンス入門」 ・データを活用した新しいビジネスモデル「ITリテラシー」
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル、分析目的の設定「データサイエンス入門」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データサイエンス入門」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンス入門」 ・データの収集、加工、分割/統合「データサイエンス入門」
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「ITリテラシー」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「ITリテラシー」 ・ビッグデータ活用事例、データガバナンス、コンピューターの構成、動作、性能、ネットワーク「ITリテラシー」
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「ITリテラシー」 ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)、人間の知的活動とAI技術「AI概論」 ・AI技術の活用領域の広がり「AI概論」
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性「ITリテラシー」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「ITリテラシー」 ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性、AIの安全性「AI概論」
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展「AI概論」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AI概論」 ・学習データと検証データ、ホールドアウト法、交差検証法、過学習、バイアス「AI概論」
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新「AI概論」 ・ニューラルネットワークの原理、ディープニューラルネットワーク(DNN)「AI概論」 ・学習用データと学習済みモデル、転移学習「AI概論」
	3-5	・実世界で進む生成AIの応用と革新「AI概論」 ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「AI概論」 ・生成AIの留意事項、マルチモーダル(言語、画像、音声など)、プロンプトエンジニアリング、ファインチューニング「AI概論」
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「データサイエンス入門」 ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス入門」 ・確率分布、正規分布、独立同一分布「データサイエンス入門」 ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「データサイエンス入門」 ・構造化データ、非構造化データ「データサイエンス入門」 ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「データサイエンス入門」
	II	・データ駆動型社会、Society 5.0「ITリテラシー」 ・データサイエンス活用事例(仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など)「データサイエンス入門」 ・データを活用した新しいビジネスモデル「ITリテラシー」 ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「データサイエンス入門」 ・分析目的の設定「データサイエンス入門」 ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「データサイエンス入門」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンス入門」 ・データの収集、加工、分割/統合「データサイエンス入門」 ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「ITリテラシー」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「ITリテラシー」 ・ビッグデータ活用事例「ITリテラシー」 ・データガバナンス「ITリテラシー」 ・コンピューターの構成、動作、性能「ITリテラシー」 ・ネットワーク「ITリテラシー」 ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「ITリテラシー」 ・AI倫理、AIの社会的受容性「ITリテラシー」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「ITリテラシー」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムを通じて、学生はデータサイエンスおよびAIの基礎知識を体系的に理解し、統計学・数学・アルゴリズム・プログラミングを基盤としたデータ分析能力を身に付ける。さらに、各学部の専門分野と結び付けながら、実社会の課題に対してデータを活用した解決策を設計・実装・評価する力を養う。加えて、AI倫理や社会的影響への理解を踏まえ、分野横断的に技術を活用できる判断力と実践力を修得する。

(和歷)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	120	人
(非常勤)	99	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

12	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	西内 章
(役職名)	教務部長・教授

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	教務委員会
------	-------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	高知県立大学教務委員会規程
------	---------------

⑥ 体制の目的

高知県立大学の教育方針を立案し、共通教養教育、専門教育及び教職課程における教育等を円滑かつ適正に運営するために教務委員会がある。共通教養教育に関する事項の企画運営については、共通教育専門委員会で審議する。

⑦ 具体的な構成員

<氏名/役職/所属>
 西内 章/教務部長・教授/社会福祉学部
 菊池 直人/教授/文化学部
 高谷 恭子/教授/看護学部
 遠山 真世/准教授/社会福祉学部
 竹井 悠一郎/准教授/健康栄養学部
 鈴木 康郎/教授/地域教育研究センター

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	20%
令和8年度予定	23%
令和9年度予定	26%
令和10年度予定	29%
令和11年度予定	32%

具体的な計画

履修者数・履修率の向上に向け、全学共通教育としての位置付けを明確化し、初年次必修科目との接続を強化する。ITリテラシーをはじめとする共通教育科目との体系的な接続を図り、履修の流れを明確化するとともに、段階的に発展科目へと進むカリキュラムマップを提示する。また、各学部の専門科目との関連事例を示し、学修内容が専門分野や将来の進路にどのように活用されるかを具体的に周知する。さらに、ガイダンスや履修相談を充実させ、実践的課題やPBL型授業の導入により学習意欲を高める。加えて、本学が実施している夜間主コースとの連携、オンデマンド・オンライン授業の導入を図ること、キャンパス間の多様な学修形態に対応した履修機会を提供する。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

学部に関係なく全学生が受講可能になるように、本プログラムの修了に必須となる科目は全て全学部の共通教養教育科目で構成している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

できる限り多くの学生が履修できるように、本プログラムの修了に必須となる科目は全て全学部の共通教養教育科目で構成し、入学時のガイダンスや毎年度の履修指導でプログラムを紹介している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制として、本プログラムの修了に必須となる科目は全て全学部の共通教養教育科目で構成しており、全学部の履修モデルに含め、履修指導をしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムの修了に必須となる科目は、全て専任教員が担当しており、オフィスアワーの時間を設けられている。履修者は授業時間外に質問や問い合わせをすることができる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 教務委員会

(責任者名)	西内 章
(役職名)	教務部長・教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	本プログラムは、ITリテラシー、データサイエンス入門、AI概論、プログラミング基礎の4科目7単位を修得要件として構成している。具体的な実績として、令和7年度の履修者数は277名、修了者数は1名であり、文化学部159名、看護学部13名、社会福祉学部64名、健康栄養学部41名が履修している。開設初年度であり、かつ修了要件に2年次以降配当科目を含むことから、修了者数が少数である点は制度設計上も自然であり、履修者は全学的に着実に確保されている。プログラムは1年次から段階的に学べる構成となっている。
	学修成果	学修成果として、情報社会の構造や情報セキュリティ、デジタル倫理に関する理解に加え、確率・統計の基礎、データ要約・可視化、Rを用いた統計解析、AIの基本概念と応用、さらにPythonによる代表的アルゴリズムの実装力を段階的に身に付けられる点が挙げられる。各科目は、情報技術の理解、データサイエンス的思考、AI活用の基礎理解、プログラミング実践を相互に接続する設計となっており、学生が自らの専門分野において数理・データサイエンス・AIを応用するための基礎力の形成に寄与している。
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	理解度に関して、現時点では、授業内課題、小レポート、期末試験、演習への取組状況から、基礎的事項については概ね理解が進んでいると考えられる。 授業評価アンケートの目標達成のサマリーは、5点満点中以下のとおりである。 ITリテラシー 平均値 4. 1 データサイエンス入門 平均値 4. 0 AI概論 平均値 3. 7 プログラミング基礎 平均値 4. 0 一方で、統計解析やプログラミング実装の場面では学生間の習熟差も想定されるため、今後はアンケートの自由記述や到達度評価を活用し、つまづきやすい箇所を科目ごとに把握して授業改善へつなげる。
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	本プログラムは、情報リテラシーからデータサイエンス、AI、プログラミングへと体系的に接続する構成であり、専門分野を問わず有用性が高い。そのため、学生アンケート等においては、将来の学修や進路に役立つ内容として後輩に推奨しやすいプログラムであると評価されることが期待される。特に、AIやデータ活用が医療、福祉、文化、地域課題の解決など幅広い分野に関係することを授業内で扱っている点は、他学生への推薦意欲を高める要素である。今後は学生ニーズを詳細に把握し、大学広報にも反映していく。
	全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	履修実績では、全学の履修者数は277名、履修率は20%であり、学部間では差がみられるものの、複数学部にわたり履修者を確保できている。現時点では開設初年度として一定の進捗が認められる一方、看護学部など履修率の低い学部への働きかけが今後の課題である。履修率向上に向けては、入学時オリエンテーションや履修ガイダンスでの周知強化、学部ごとの学修モデルの提示、科目間接続の見える化を進めるとともに、令和9年度以降は履修登録上限単位数(CAP)内で履修しやすいカリキュラム上の改善も検討していく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和7年度からの開設であり、まだ卒業生は出ていないため、現状では評価はできないが、今後継続的に進路等の調査や卒業生調査、卒業生の就職先からの意見聴取などを実施することを検討している。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	会員となっている「数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム四国ブロック」での会員校間の交流や同一法人が運営する高知工科大学のデータ&イノベーション学群との交流などにより、産業界からの意見を得られることが見込まれる。 また、産業界との交流機会において、本プログラムの内容・手法等について意見をいただき、さらなるプログラムの充実に努めていきたい。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムでは、情報技術の歴史、社会のデジタル化、データ分析の実践、AIの最新事例、プログラミング演習を通じて、数理・データサイエンス・AIが抽象的な知識ではなく、現実社会を理解し課題解決に生かすための道具であることを学ばせている。具体的には、Rによる分析演習やPythonによる実装、AIの医療・教育・ビジネスへの応用事例を扱うことで、学ぶことの面白さと社会的意義を実感できる構成としている。学生が自分の専門分野との接点を見いだせる点も、本プログラムの重要な特徴である。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	各科目では、基礎から応用へと段階的に学べる授業設計を採用し、講義と演習、課題、小レポート、試験を組み合わせながら理解の定着を図っている。データサイエンス入門ではR/EZR、プログラミング基礎ではGoogle Colab上のPython演習を取り入れ、実際に手を動かしながら学べる工夫を行っている。また、AI概論では生成AIやTransformer等の新しい技術動向も扱っており、社会の変化を踏まえて講義内容をアップデートしている。今後も教務委員会による自己点検・評価のもと、アンケート結果や学修成果を踏まえ、教育内容・方法を継続的に見直していく。

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	18910210
講義名称	ITリテラシー
開講責任部署	大学共通教育科目
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	水曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	共通教育科目
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	選択

担当教員

氏名	所属
◎ 根本 大志	総合情報センター

授業の概要	本講義では、デジタル技術が歴史を通じて社会にどのように影響を与えてきたか、そして未来社会にどのような変化をもたらす可能性があるかを学びます。20世紀の技術革命から始まり、デジタル化以降の情報技術の進化、コンピュータの基本、セキュリティ、ネットワーク技術、そしてAIや機械学習などの最先端技術へと進む流れで、技術が私たちの生活、仕事、そして社会全体にどのように組み込まれているかを掘り下げます。また、デジタル社会における倫理問題、プライバシー保護、分散型インターネットの概念といった現代的な課題にも焦点を当てます。技術進化と社会変容の関係を理解し、展望を探ることを狙いとしています。
達成目標（達成水準）	(1)情報化とネットワーク化の影響に関する理解を深める（40%） (2)情報社会における批判的思考能力と主体性の育成（40%） (3)情報社会の将来を構想する力を養う（20%）

授業計画表

回	内容
第1回	デジタル以前の情報技術（IT） - 技術が紡ぐ歴史と発展
第2回	デジタル化以降の情報技術（IT） - 現代社会を支える技術
第3回	コンピュータ基礎理論：ハードウェアとソフトウェアとそれ以外
第4回	情報のデジタル変換：テキスト、数値データ、およびメディア
第5回	コンピュータ内部の設計(アーキテクチャ)とデータの流れ
第6回	物理メディアを知る。ネットワークの仕組み。
第7回	サーバーの役割、サーバークライアント方式
第8回	データベースとは、データベースの操作を知る。
第9回	ネットワークと最新技術：クラウド、IoT、5G
第10回	情報セキュリティのリスク：脅威とは、CIA
第11回	情報セキュリティの具体策：暗号技術
第12回	デジタルプライバシー：個人情報保護と規制の現状(GDPR)
第13回	インタフェースデザイン：GUIからUI/UX
第14回	分散型インターネットとWEB3.0：次世代技術の理解と影響

第15回	まとめと試験
------	--------

成績評価（基準と方法）	試験50％、課題や小レポート等50％などから総合的に行う。 ただし、定期試験の受験資格として、授業への出席日数を満たしていることを条件とする。
教科書・参考書	教科書は使用しない。授業中に参考URLや参考キーワードを紹介するので、Web等を参考にすること。
授業外学習課題	1 情報技術の黎明期から20世紀までの主要な発展をウェブで調べ、重要な発明や思想の変化をまとめる。 2 21世紀の情報技術の重要なトレンドと現在の技術革新についてオンラインで調査し、その社会への影響について考察する。 3 コンピュータ基礎理論（ハードウェア、ソフトウェア、その他）の基本概念と歴史的進化について、主要な理論や技術の変遷を調べてまとめる。 4 情報のデジタル変換（テキスト、数値データ、メディア）の具体的プロセスと、アナログからデジタルへの移行が社会や産業に及ぼした変化について研究し、レポートにまとめる。 5 コンピュータ内部の設計（アーキテクチャ）とデータの流れの効率化に関する主要な設計思想と実例を調べ、図表などを用いてまとめる。 6 物理メディアおよびネットワークの基本的仕組みを調査し、伝送技術や記憶装置の進化が現代ネットワーク技術に与えた影響について考察する。 7 サーバーの役割とサーバークライアント方式について、実際の事例を交えて調査し、その利点と課題を整理してレポートにする。 8 データベースの基本概念、種類、及びその重要性についてオンライン資料を参考に調査し、まとめる。 9 クラウド、IoT、5Gなど最新ネットワーク技術の実例を集め、それぞれが実生活や産業にどのような革新をもたらしているかを考察する。 10 情報セキュリティのリスクと脅威（特にCIAの観点）に関する事例を調べ、各脅威が社会に与える影響とその防御策についてレポートを書く。 11 暗号技術の基本原理とその実用例（主要な暗号アルゴリズムなど）を調査し、現代の情報保護における役割をまとめる。 12 デジタルプライバシーと個人情報保護（GDPRなど）の現状について、各国の規制や具体的保護方法を調べ、自身のデジタルフットプリントを見直す活動を行う。 13 GUI、UI/UX、CUIの各インタフェースがどのように統合され、ユーザ体験に影響を与えているかについて、実際のアプリケーションの事例を分析し、改善提案をまとめる。 14 分散型インターネットとWEB3.0の概念を調査し、従来の中央集権型システムとの違いやその社会的影響、将来の展望についてレポートにまとめる。 15 これまでの講義内容を振り返り、デジタル社会の現状と今後の発展について自分なりの見解をまとめた総合レポートを作成する。
オフィスアワー	未定(放課後:研究室)

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	19210310
講義名称	データサイエンス入門
開講責任部署	大学共通教育科目
講義区分	演習
基準単位数	1.0
代表曜日	水曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	選択

担当教員

氏名	所属
◎ 根本 大志	総合情報センター

履修における注意点	授業で用いる統計ソフト（R Studio, EZR）は演習室PCに入れてありますので、授業外など必要に応じて「情報演習室のPC」を利用してください。また、自分のPCにR（EZR）をインストールすることを勧めますが、その場合「Windows PC」が楽であり、Mac, Linux, ChromeOS等でも不可能ではないが、高いITリテラシーが要求されますので、Windows PCを所有していない方は、情報演習室のPCで演習を行ってください。
授業の概要	本講義は、データサイエンスの基礎概念と数学及び確率論を駆使した統計分析を紹介します。ベイズ定理、R言語を用いた記述統計やデータの可視化等のトピックを取り上げます。離散確率分布、二項分布、正規分布といった統計学の根幹をなす概念から、統計的推定、t検定、母平均の推定および検定に至るまでの実践的分析についても掘り下げます。実際のデータセットを用いたRによる統計解析の実践を行います。この講義を通じて、データサイエンスの基礎から実践的な応用までの広範な知識と技術を身につけ、実世界の問題解決への応用を目指します。
達成目標（達成水準）	(1)データサイエンス的思考の習得（20%） (2)確率と統計学の基礎の理解（20%） (3)データ要約と視覚化の理解（20%） (4)基礎的・発展的なデータ解析の実践（40%）

授業計画表

回	内容
第1回	データサイエンス概論：ガイダンス、準備、および参考資料
第2回	データサイエンスの起源と思考法
第3回	条件付き確率とベイズ定理：分割表、オッズ、オッズ比から薬の効果と因果推定へ
第4回	ベイズ推定入門：陽性的中率、陰性的中率、薬の効果、および迷惑メールの判定
第5回	記述統計の基礎：R(EZR)によるデータの要約と視覚化
第6回	離散確率分布：確率変数、分布、一様分布、二項分布の理解
第7回	二項分布と二項検定：P値とアンケート結果の信頼性分析
第8回	二項分布の近似：ポアソン分布と正規分布への理解
第9回	連続確率分布と正規分布：微積分学の基礎を含む
第10回	母集団と標本、中心極限定理の理解
第11回	統計的推定とt検定：サンプルからの全体推定と注意点

第12回	母平均の推定と検定：Rによるシミュレーションを通じた統計解析の実践
第13回	Rによる統計解析入門：母平均の区間推定と2群間の母平均差の検定
第14回	実践データ解析：Rを用いた分散検定、分割表の検定、因果関係の推定、相関と線形回帰、疑似相関
第15回	総まとめ
第16回	期末テスト

成績評価（基準と方法）	授業内での取り組みやレポート(50%) 期末試験(50%)
教科書・参考書	教科書は使用しない。授業中に参考URLや参考キーワードを紹介するので、Web等を参考にすること。
授業外学習課題	1 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 2 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 3 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 4 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 5 授業内で扱った統計手法をRで行い整理してみる。可能ならオープンデータを活用する。 6 授業内で扱った統計手法をRで行い整理してみる。可能ならオープンデータを活用する。 7 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 8 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 9 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 10 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 11 統計的な視点で、日常や興味ある現象を探究し、その観察をレポートにまとめる。 12 授業内で扱った統計手法をRで行い整理してみる。可能ならオープンデータを活用する。 13 授業内で扱った統計手法をRで行い整理してみる。可能ならオープンデータを活用する。 14 授業内で扱った統計手法をRで行い整理してみる。可能ならオープンデータを活用する。 15 授業内で扱った統計手法をRで行い整理してみる。可能ならオープンデータを活用する。
オフィスアワー	未定(放課後:研究室)

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	19810210
講義名称	AI概論
開講責任部署	大学共通教育科目
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	水曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	単独
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 根本 大志	総合情報センター

履修における注意点	毎回使用するわけではないが、PC利用を想定とした授業なので持参すること。 ITリテラシーの後に受講することで、より体系的に理解できる。
授業の概要	本講義では、AI（人工知能）の基礎から応用までを幅広く学びます。AIの基本的な定義や仕組みから歴史的背景を理解し、機械学習やニューラルネットワーク、ディープラーニング、自然言語処理、画像・音声認識といった技術全般を学習します。さらに、最新AI事例やビジネス、医療・教育分野での実事例も取り上げ、実社会での役割と可能性を探究します。AIの倫理的課題や技術的問題を知り、人間との協働に関しても考察し、AI全体への理解を深めることを狙いとしています。
達成目標（達成水準）	(1)AIの基本的な概念と歴史的背景を理解し、主要な技術について基礎知識を身につける（40%） (2)現在多方面で利用されているAIを通じて、社会的影響や応用可能性を考える（40%） (3)将来のAIや人間の役割を再認識し、新しい技術に対応する力を養う（20%）

授業計画表

回	内容
第1回	授業ガイダンス：AI(人工知能)とは何か。AIの基本的な定義や仕組み、身近なAIの事例
第2回	AIの歴史と概要:AIの概念や技術の変遷
第3回	機械学習の基本:教師あり学習と教師なし学習
第4回	ニューラルネットワークの基礎：バックプロパゲーション
第5回	ディープラーニングの仕組み：CNN,RNN,LSTM
第6回	自然言語処理 (NLP) の基礎
第7回	大規模言語モデル:Transformer
第8回	最新AIの事例：生成AIとは
第9回	強化学習の実践事例：ゲーム、自動運転
第10回	画像認識と音声認識から生成まで
第11回	AIの開発環境とツール:主要ライブラリ (TensorFlow, PyTorch, Scikit-learn)

第12回	AIの創造性：医療、教育分野での利用や芸術
第13回	ビジネスへの応用：マーケティング、業務自動化、顧客分析
第14回	AIの課題と限界、人間とAIの協働
第15回	まとめと試験

成績評価（基準と方法）	試験50％、課題や小レポート等50％などから総合的に行う。 ただし、定期試験の受験資格として、授業への出席日数を満たしていることを条件とする。
教科書・参考書	教科書は使用しない。授業中に参考URLや参考キーワードを紹介するので、Web等を参考にすること。
授業外学習課題	第1回：AIの基本定義や仕組み、身近なAI事例をウェブで調べ、短いまとめを作成する。 第2回：AIの歴史や技術変遷、重要な出来事を時系列で整理し、レポートにまとめる。 第3回：教師あり学習と教師なし学習の特徴や代表的アルゴリズムを調査し、比較まとめを作成する。 第4回：バックプロパゲーションの仕組みを図解と計算例で整理し、解説資料を作成する。 第5回：CNN、RNN、LSTMの基本構造と応用例を比較し、レポートにまとめる。 第6回：自然言語処理（NLP）の主要タスクや実例を調べ、基礎知識を整理する。 第7回：Transformerの基本原理と構成要素を図解し、主要論文を参考にまとめる。 第8回：生成AIの仕組みと事例（例：GAN、Diffusion Model）を調査し、レポートを作成する。 第9回：強化学習の実例（ゲーム、自動運転など）の成功例と課題を調査し、まとめる。 第10回：画像認識と音声認識、及び生成技術の連携事例を調べ、技術の進化を整理する。 第11回：TensorFlow、PyTorch、Scikit-learnの特徴と使い方を比較し、簡単な実装例をまとめる。 第12回：医療、教育、芸術分野でのAI活用事例を調査し、創造的応用のメリットと課題をまとめる。 第13回：マーケティング、業務自動化、顧客分析など、ビジネス領域でのAI応用事例を調査し、レポートにまとめる。 第14回：AIの倫理、バイアス、プライバシー問題などの課題を事例と共に整理し、人間との協働について考察する。 第15回：これまでの講義内容の要点を整理し、総合レポートを作成して復習する。
オフィスアワー	未定(放課後:研究室)

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	20110310
講義名称	プログラミング基礎
開講責任部署	大学共通教育科目
講義区分	演習
基準単位数	2.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 名和 真一	総合情報センター

履修における注意点	各自自分のPCを持参すること
授業の概要	google colab上でPythonのプログラミング基礎について、演習を行う。
達成目標（達成水準）	代表的なアルゴリズムを理解し、 そのプログラムを書けるようになる事を目標とする。

授業計画表

回	内 容
第1回	実習の準備
第2回	Pythonの基礎
第3回	条件分岐
第4回	繰り返し
第5回	配列
第6回	sort
第7回	sort
第8回	数値積分
第9回	Simpsonの公式
第10回	モンテカルロ
第11回	連立一時方程式の解放
第12回	LU分解
第13回	Gauss-Seidel
第14回	逆行列
第15回	逆行列

成績評価（基準と方法）	各時限の授業内で指示する提出課題を以て判定する。

教科書・参考書	特に指定しない。授業内で参考資料等を紹介する。
授業外学習課題	提出課題については授業時間内に提出する必要は無いが、次回授業までに提出しておくこと。
オフィスアワー	木曜14:40～15:40 E207研究室
備考	進度や実習環境の都合等により、予告無く内容を変更することがあります。

更新日時	2025/10/19 19:25:03
年度	2025
講義コード	15032013
講義名称	社会調査論
開講責任部署	文化学部文化学科
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	火曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
校地	永国寺キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	選択

担当教員

氏名	所属
◎ 大井 方子	文化学科

履修における注意点	課題、グループワーク・実習に積極的に取り組むこと。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,6を修得するために特に重要な科目。DP1,2を修得するために重要な科目。
授業の概要	社会を知るための調査の手法のうち、社会調査の量的調査を学ぶ。
達成目標（達成水準）	（１）新聞社等による社会調査の調査結果を論評できるようになる。 （２）自分で社会調査をするときの注意点が理解できるようになる。 （３）自分でデータ分析が一定程度できるようになる。

授業計画表

回	内容
第1回	はじめに。 質的データと量的データ（第2章）,ヒストグラム、平均値・中央値、箱ひげ図（第3章,4章）
第2回	偏差値とは何か：分布と標準偏差（分散）と標準化と偏差値（第5章,第6章1節）
第3回	予告編デモ 標準正規分布（第8章）
第4回	社会調査の4つのStep: Step1標本抽出：母集団と無作為抽出（第9章1,2節）
第5回	Step2調査方法：自記式と他記式/配布と回収（第9章3節, 谷岡）（Step1標本抽出3 街角インタビューで民意がわかるのか？非標本誤差、回収率と有意抽出（谷岡））
第6回	Step3調査票によるミスリードはないか（谷岡）
第7回	Step4分析1：Step1-2 標本誤差、標準誤差、信頼区間（可能なら調査人数の決定）（第10章）、仮説検定と有意差（第11章）
第8回	Step4分析2：クロス集計表の読み方（第12章） Step4分析3：相関と回帰分析（第13章）:相関関係は必ずしも因果関係にあらず（谷岡）
第9回	以下、グループワーク・実習 データ分析の実際とレポート・論文－結婚意思の女性データ1 データの読み込み、平均など
第10回	データ分析の実際とレポート・論文－結婚意思の女性データ2 クロス集計、相関

第11回	データ分析の実際とレポート・論文－結婚意思の女性データ3 回帰、仮説検定
第12回	データ分析の実際とレポート・論文－結婚意思の男性データ（自分達でやってみよう）
第13回	東大社研データ（自分達でやってみよう）
第14回	グループワーク・実習：東大社研データで自由分析＋レポート作成1（自分達でやってみよう）
第15回	グループワーク・実習：東大社研データで自由分析＋レポート作成2（自分達でやってみよう）

成績評価（基準と方法）	選択式の課題（約45%）、各回の「要約・感想・質問・要望等」の提出（15%）、グループワーク・最終レポート（約40%）。
教科書・参考書	参考書： 石崎克也・渡辺美智子『身近な統計』。（授業前半） 谷岡一郎『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書。（授業中盤） 石村貞夫、加藤千恵子、劉晨『やさしく学ぶ統計学 Excelによるアンケート処理』東京図書。（授業後半） 田中隆一『計量経済学の第一歩』有斐閣、 松浦寿幸『Rによるデータ分析入門』東京図書、 等。
授業外学習課題	参考書等により予習、復習をすること。課題を解くこと。 日頃から、ニュースや身近な事象について、授業で学んだ分析方法を用いて説明を試み、レポートに備えること。
オフィスアワー	月曜3時間目。授業の前後も、時間があるときは対応します。確実に会いたい場合は、事前にmoodleのメッセージ機能等でアポイントメントを取ってください。その他の曜日・時間でも都合が合えば、オンラインを含みお会いします。ご連絡ください。
備考	「授業計画」及び「成績評価（基準と方法）」については、受講者の人数や授業の理解度によって変更、修正がありうる。 前半部分は特に、共通教育科目「データサイエンス入門」（後期開講）も受講すると、より理解が深まる可能性がある。

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	12732013
講義名称	情報処理演習
開講責任部署	文化学部文化学科
講義区分	演習
基準単位数	1.0
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
校地	永国寺キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	必修

担当教員

氏名	所属
◎ 根本 大志	総合情報センター

授業の概要	本講義では情報技術の基礎から応用までを網羅し、社会の情報化・ネットワーク化を深く理解することを目指します。オペレーティングシステム、データ管理から始まり、HTML、CSS、JavaScript、Pythonを使ったウェブページ作成とプログラミング技術を知る。AIとチャットボットの開発、テキストマイニング、ウェブスクレイピングを通じて、データの収集・分析方法を学ぶ。プログラミングを用いたクリエイティブな表現を学ぶこともできる。問題解決力や主体性を育成し、情報化社会に貢献する力を養うことを目的とする。
達成目標（達成水準）	(1)実践的なコーディングスキルの習得する（40%） (2)情報処理スキルを獲得する（40%） (3)ITを用いた表現力を獲得する（20%）

授業計画表

回	内容
第1回	情報技術の基礎: コンピュータとOS入門 - 基本的な情報技術の理解とオペレーティングシステムの紹介。
第2回	データ管理の原則: ファイル管理とアクセス制御 - ファイルの管理方法とデータのセキュリティに関する基礎。
第3回	Webページ作成(1): HTML入門 - 基本的なウェブページ構築のためのHTML。
第4回	Webページ作成(2): HTML5とCSS3での高度なマークアップとデザイン - HTML5とCSS3を使用した高度なウェブデザイン技術。
第5回	プログラミング基礎: JavaScript入門 - インタラクティブなウェブコンテンツの作成に焦点を当てたJavaScriptの基礎。
第6回	p5.jsを用いたインタラクティブグラフィックデザイン(1)基本図形と色
第7回	p5.jsを用いたインタラクティブグラフィックデザイン(2)アニメーション
第8回	Webアプリケーション開発演習(1): チャットボットの基礎 - チャットボットの開発入門と基本的な実装。
第9回	Webアプリケーション開発演習(2): チャットボットの応用とAIの基本 - チャットボットの応用開発とAI技術の紹介。
第10回	アルゴリズムとフローチャート: 論理的思考と問題解決の基本 - アルゴリズムの基礎とフローチャートを使用した考え方。
第11回	プログラミング演習(1): Python入門と基礎構文
第12回	プログラミング演習(2): Pythonで行うデータの可視化、シンプルなプログラム
第13回	テキストマイニング: テキストデータからのパターン発見 - テキストデータの分析と情報抽出技術。
第14回	Webスクレイピング: ウェブからのデータ収集技術 - ウェブデータの自動収集方法と技術。

第15回	まとめと試験
------	--------

成績評価（基準と方法）	授業内試験30％、授業内の課題や小レポート等70％などから総合的に行う。 ただし、試験の受験資格として、授業への出席日数を満たしていることを条件とする。
教科書・参考書	教科書は使用しない。授業中に参考URLや参考キーワードを紹介するので、Web等を参考にすること。
授業外学習課題	1 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 2 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 3 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 4 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 5 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 6 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 7 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 8 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 9 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 10 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 11 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 12 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 13 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 14 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆 15 （授業前）テーマ関連の基本用語のリサーチと質問作成(授業後)学習したスキルを使ったプログラム作成やレポートの執筆
オフィスアワー	未定(放課後:研究室)

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	20533014
講義名称	地域看護実習
開講責任部署	看護学部看護学科
講義区分	実習
基準単位数	2.0
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	オムニバス
対象年次	3～
必選区分	選択

担当教員

氏名	所属
◎ 小澤 若菜	看護学科

履修における注意点	実習要項参照
資格・区分等	・保健師国家試験受験資格・資格取得に関連する ・地域共生推進副専攻指定科目（選択必修科目）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2を修得するために特に重要な科目。DP4を修得するために重要な科目。
授業の概要	地域社会での個人・家族・集団の生活および健康を総合的に理解する。生活に応じた援助方法や家族・集団に対する援助方法について学び、地域の健康問題に対して看護活動を展開する能力を養う。また、地域のヘルスケアシステムについて知り、他職種や住民との連携について考察し、その中での看護者の役割について理解を深めるとともに、学生自身の自己洞察を深め、専門職としての意識を啓発する。
達成目標（達成水準）	実習要項参照

授業計画表

回	内容
第1回	実習は保健所および市の保健担当課で行う
第2回	1）実習地でのオリエンテーションに参加し、実習地の保健活動及び保健師の機能・役割に関する理解を深める。
第3回	2）保健師より、担当地区における保健師活動及び家庭訪問支援に関する説明を受け、地区分析及び計画作成の参考とするとともに、受け持ち地区を対象とした保健師活動について、活動展開方法の理解を深める。 また、保健師が行う家庭訪問の機能・役割について理解を深める。
第4回	3）地区踏査・情報収集を基とした地区分析を行い、地区の健康課題を見出し、次年度の活動計画を立案する。
第5回	4）集団を対象とした健康教育を企画・実施・評価する。
第6回	5）保健師の関わる事業に参加し、事業の企画・実施・運営における保健師の機能・役割を把握するとともに、事業をより住民のヘルスニーズに適応させるための方法を考える。
第7回	6）学生全員・臨地指導者・教員で反省会を行い、実習体験の振り返り、共有、自己の学習の方向付けを行うとともに、地域の健康問題を解決するための看護活動のあり方を考える。

成績評価（基準と方法）	グループ・個々の実習目標の到達度、実習態度、及びレポートから総合的に評価する（80%） 実習場所における個々の看護実践及び実習記録物から各目標の到達度を評価する（20%）
教科書・参考書	特になし（「地域の健康と看護」「地域看護援助論」で使用した教科書を参考図書とする。）

授業外学習課題	【実習までにグループで事前学習する内容】 ①地図の作成：住宅地図をコピーし、張り合わせる。色分けやマーキングを行い、地図から見える地域の状況を理解する。 ②地区情報の収集：インターネットを活用し、地区の町丁別世帯数や人口構成等の統計資料をはじめ、地区の情報を集める。 【個々に事前学習する内容】 ①関連科目の講義資料を復習し、教科書を再度読む。 ②成人高齢者・母子の健康課題や健康生活支援方法について、健康教育を実施できるよう、基本的な知識を確認しておく。 【実習期間中の授業外学習】 グループによる実習課題作成のため、実習時間以外も実習室を活用することができる。
オフィスアワー	月・火・木・金の実習終了後および水曜日
備考	・実務経験のある教員による授業科目 ・事前に実習グループの希望と実習で使用する交通手段の調査を実施する。

更新日時	2025/03/31 23:11:04
年度	2025
講義コード	12023014
講義名称	健康管理論
開講責任部署	看護学部看護学科
講義区分	講義
基準単位数	1.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	単独
対象年次	3～
必修区分	必修

担当教員

氏名	所属
◎ 立木 隆広	看護学科

資格・区分等	看護職に関する国家試験受験資格・資格取得に関連する。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2を修得するために重要な科目。
授業の概要	看護師、保健師、助産師などの看護職が将来担当する健康管理について、公衆衛生の枠組みの中での役割を概説し、重要な考え方であるリスク要因について学ぶ。実際の健康管理の場面として想定される各ライフステージにおいてどのような健康管理が行なわれるのか、疾病の予防が具体的にどうなされるのかを学ぶ。
達成目標（達成水準）	達成度は、定期試験により評価する。 （１）健康管理における看護職の役割について理解できるようになる。 （２）リスク要因の考え方を理解できるようになる。 （３）各ライフステージでの健康管理について説明できるようになる。 （４）重要な疾病の予防について説明できるようになる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	ガイダンス/衛生学・公衆衛生学序論：健康の概念と公衆衛生における健康管理	立木
第2回	疾病予防と健康管理 1	立木
第3回	疾病予防と健康管理 2	立木
第4回	主な疾病の予防 1	立木
第5回	主な疾病の予防 2	立木
第6回	主な疾病の予防 3	立木
第7回	地域保健と保健行政 1	立木
第8回	地域保健と保健行政 2	立木
第9回	保健医療福祉の制度と法規 1	立木
第10回	保健医療福祉の制度と法規 2	立木
第11回	医療情報1：人口統計	立木
第12回	医療情報2：保健統計調査	立木

第13回	健康管理の進め方：健康行動理論の基盤	立木
第14回	健康教育	立木
第15回	EBM/まとめ	立木

成績評価（基準と方法）	期末試験100%
教科書・参考書	【教科書】 1）シンプル衛生公衆衛生学2024 2）国民衛生の動向2024/2025
授業外学習課題	教科書の該当ページを読んで講義に参加する。講義終了後、資料及び教科書の該当ページをよく読み必ず復習すること。
オフィスアワー	講義当日の放課後。

更新日時	2025/03/31 23:09:01
年度	2025
講義コード	12233014
講義名称	疫学
開講責任部署	看護学部看護学科
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	
対象年次	3～
必選区分	必修

担当教員

氏名	所属
◎ 立木　隆広	看護学科
加藤　昭尚	看護学科

履修における注意点	高校の確率統計などの基礎的な数学の知識があることを前提として講義・演習を進める。
資格・区分等	看護職に関する国家試験受験資格・資格取得に関連する。 総合看護実習Ⅱの履修要件の科目である。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1・6を修得するために重要な科目。
授業の概要	疫学は、明確に規定された人間集団の中で出現する健康関連のいろいろな事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てるための科学である。本科では、主に疫学の基礎となる理論とその応用としての方法論を学修する。
達成目標（達成水準）	達成度は、定期試験により評価する。 （１）人間集団の健康現象を人と環境要因の関わりによって説明できるようになる。 （２）疫学の理論を理解し、これを基に方法論をつかむことができる。 （３）疫学の方法論について理解し、それを応用する手法について説明できるようになる。 （４）人間集団のなかにある健康事象を疫学的な手法で捉えることができる。

授業計画表

回	内 容	担当教員フリーテキスト
第1回	ガイダンス/疫学の概念①	立木
第2回	疫学の概念②/記述疫学と分析疫学	立木
第3回	母集団と標本/疾病頻度の指標①	立木
第4回	疾病頻度の指標②/曝露効果の指標	立木
第5回	疫学調査法	立木
第6回	分析疫学指標の意味と計算①（リスクとは何か）	立木　加藤
第7回	真値と誤差/確度と精度/バイアスとバイアスの制御①	立木
第8回	バイアスとバイアスの制御②/交絡と交絡の制御	立木
第9回	分析疫学指標の意味と計算②（年齢調整死亡率）	立木　加藤

第10回	内的妥当性と外的妥当性/疫学的因果推論/疫学と統計学	立木
第11回	スクリーニング	立木
第12回	臨床検査の有効性指標の意味と計算	立木 加藤
第13回	疾病登録/主な疾患の疫学	立木
第14回	システマティックレビュー/メタアナリシス/EBM	立木
第15回	臨床疫学/社会疫学/政策疫学/疫学と公衆衛生活動	立木

成績評価（基準と方法）	期末試験：100%
教科書・参考書	【教科書】 1）「改定 疫学・保健統計―看護師・保健師・管理栄養士を目指す」 車谷 典男 他 著 建帛社 【参考書】 1）「基本からわかる 看護疫学入門」大木秀一著 医歯薬出版株式会社 2）「はじめて学ぶやさしい疫学改訂第3版」 日本疫学会 監 南江堂 3）「国民衛生の動向2025/2026」 厚生労働統計協会
授業外学習課題	教科書の該当ページを読んで講義に参加する。講義終了後、資料及び教科書の該当ページをよく読み必ず復習すること。
オフィスアワー	講義日時の放課後

更新日時	2025/04/02 22:50:02
年度	2025
講義コード	23423014
講義名称	総合看護実習Ⅱ
開講責任部署	看護学部看護学科
講義区分	実習
基準単位数	1.0
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	実習
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
青木 早苗	看護学科
◎ 立木 隆広	看護学科

履修における注意点	実習では統計分析ソフトRとMicrosoft Teamsを利用する。 疫学、保健統計学の知識が必要である。 実習前までに統計分析ソフトRを使用して基本的な統計解析ができるようにしておくこと。
資格・区分等	疫学、保健統計学を修得している者。
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1・2・5・6を修得するために重要な科目。
授業の概要	対象の健康の維持増進を図り生活を支援するために対策が必要な現象（個人・集団の健康課題）を特定するためのデータの分析を行い情報を得ることを学ぶ。さらに、明らかになった健康課題の解決に必要な看護・保健活動を実践するための情報を得る方法を学ぶ。これらのことを通して、健康課題を多面的に捉えるとともに、得られた情報を活用し看護学および保健学の視点から解決方法を考察することも学ぶ。また、データ駆動型健康課題解決を体験することにより、新たな看護・保健活動を提案する力、Society 5.0に対応できる看護・保健活動を創造する力を養う。
達成目標（達成水準）	１．対象（個人・集団）の健康課題の解決のために、必要なデータは何か説明できる。 ２．データ分析を基に、健康課題の背景・実態、影響要因の検討を科学的根拠を持って行える。 ３．分析結果を踏まえ、対象の健康課題解決のために情報を活用した看護・保健活動を提案できる。 ４．提案した看護・保健活動の有用性と限界を科学的根拠を持って考察できる。

授業計画表

回	内容	担当教員フリーテキスト
第1回	オリエンテーション	立木 青木（早） 他
第2回	院内における課題解決のためのデータの利活用	立木 青木（早） 他
第3回	看護職の立場からみた、地域の健康課題の解決のためのデータの利活用	立木 青木（早） 他
第4回	データから健康課題を見つけ解決策を考案する	立木 青木（早） 他
第5回	得られた結果を共有し発展させる	立木 青木（早） 他

成績評価（基準と方法）	実習目的における到達度を、実習内容および実習記録から総合的に評価する。 実習目的ごとの配分：目的1～4（各25％）
	【教科書】 「疫学・保健統計―看護師・保健師・管理栄養士を目指す」 車谷 典男 他 著 建帛社

教科書・参考書	【参考書】 「超入門！すべての医療従事者のためのRStudioではじめる医療統計－サンプルデータでらくらくマスター」笹渕裕介 他 著 株式会社金芳堂
授業外学習課題	＜実習前に行うこと＞ 疫学、保健統計学を復習しておくこと。 統計解析ソフトRを使用して基本的な統計解析ができるようにしておくこと。 ＜実習中＞ 実習班で協力し実習目標達成に必要な資料・文献を調べ共有すること。
オフィスアワー	随時（事前に連絡しアポイントメントを取ること）

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	20223014
講義名称	地域の健康と看護
開講責任部署	看護学部看護学科
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	
授業方式	
対象年次	
必選区分	

担当教員

氏名	所属
◎ 小澤 若菜	看護学科
岩井 由里	看護学科
小味 慶子	看護学科

授業計画表

回	内 容
第1回	保健師の活動と地域看護
第2回	地域看護のプロセス①
第3回	地域看護のプロセス②
第4回	ライフサイクル別の集団の健康と地域看護活動① 母子保健活動
第5回	ライフサイクル別の集団の健康と地域看護活動② 成人・高齢者保健活動
第6回	演習① 地域の情報と健康課題の分析（グループワーク）
第7回	演習② 健康課題の分析と目標の設定（グループワーク）
第8回	演習③ 目標設定と活動計画の作成（グループワーク）
第9回	演習④ 発表・討議（グループワーク）
第10回	障害をもつ人々と地域看護活動
第11回	難病をもつ人々と地域看護活動
第12回	健康危機管理と地域看護活動①
第13回	健康危機管理と地域看護活動②
第14回	僻地(島嶼)と都市の保健師活動
第15回	働く人々と地域看護活動

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	20424015
講義名称	社会福祉調査の基礎
開講責任部署	社会福祉学部社会福祉学科
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	金曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	単独
対象年次	3～
必選区分	必修

担当教員

氏名	所属
◎ 遠山 真世	社会福祉学科

資格・区分等	・社会福祉士指定科目 ・地域共生推進副専攻指定科目（選択必修科目）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4を修得するために特に重要な科目。
授業の概要	社会福祉調査の意義や倫理を理解し、調査デザインや量的調査・質的調査の種類と実施方法、分析方法を学ぶ。 ①社会福祉調査の意義と目的について理解する。 ②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。 ③社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。 ④量的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑤質的調査の方法及び調査の結果について適切に理解する。 ⑥ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する
達成目標（達成水準）	1. 社会福祉調査の意義と目的を理解し、倫理と個人情報保護を遵守した社会福祉調査をデザインすることができる。 2. 量的調査の種類と方法を理解し、質問紙を作成するとともに、各種の分析方法を用いた分析結果を的確に読み取ることができる。 3. 質的調査の方法を理解し、インタビュー調査や観察調査を企画・実施でき、各種の分析方法を用いてデータを分析することができる。

授業計画表

回	内容
第1回	社会福祉調査の意義と目的・社会調査と社会福祉の歴史的関係
第2回	統計法の概要・社会福祉調査における倫理と個人情報保護
第3回	社会福祉調査のデザイン1：社会福祉調査における考え方・論理・目的と対象
第4回	社会福祉調査のデザイン2：社会福祉調査のプロセス・データ収集と分析
第5回	量的調査の方法1：量的調査の種類と方法
第6回	量的調査の方法2：質問紙の作成方法と留意点
第7回	量的調査の方法3：量的調査の集計と分析（単純集計とクロス集計）
第8回	量的調査の方法4：量的調査の集計と分析（散布図・相関と回帰ほか）
第9回	質的調査の方法1：観察法・面接法
第10回	質的調査の方法2：記録の方法と留意点

第11回	質的調査の方法3：質的調査のデータの分析方法（事例研究・グラウンデッドセオリーアプローチ）
第12回	質的調査の方法4：質的調査のデータの分析方法（ライフストーリー・アクションリサーチ他）
第13回	ソーシャルワークにおける評価の意義
第14回	ソーシャルワークにおける評価対象
第15回	ソーシャルワークにおける評価方法
第16回	最終試験

成績評価（基準と方法）	以下を基準に総合的に評価する。 ・出席および意欲的な授業態度（達成目標1～3）20％ ・小レポート3回（達成目標1～3）15％ ・小テスト2回（達成目標1～3）25％ ・最終試験（達成目標1～3）40％
教科書・参考書	教科書：福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ5 社会福祉調査の基礎』弘文堂、2023年。
授業外学習課題	・全回を通して、教科書の該当箇所を読み予習・復習を行う。 ・5回目・10回目に小テストを行う。出題範囲の復習を課題とする。 ・その他、学習進度を確認するため、随時、小レポートを課す。
オフィスアワー	4月以降に掲示する。

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	20334015
講義名称	福祉研究法入門
開講責任部署	社会福祉学部社会福祉学科
講義区分	講義
基準単位数	2.0
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	単独
対象年次	2～
必選区分	必修

担当教員

氏名	所属
◎ 福間 隆康	社会福祉学科

授業の概要	この科目は、社会福祉の現場における現象や課題について、状況を把握し課題解決につなげるための研究法について理解を深めることを目的とします。 ・研究手法や研究論文の特徴について理解し、各自の研究テーマに取り組むための基礎的知識を身につける。 ・社会福祉分野における研究方法論の概要を理解する。 ・研究活動において求められる研究倫理を身につける。
達成目標（達成水準）	1 研究の基本的枠組みを説明することができる（20％） 2 研究設計と手順をまとめ、その内容を発表することができる（30％） 3 研究倫理の概要について説明することができる（10％） 4 社会福祉分野において活用されるいくつかの研究法の概要をまとめ、その内容を発表することができる（30％） 5 論文執筆法について説明することができる（10％）

授業計画表

回	内 容
第1回	論文とは何か ・論文の形式
第2回	科学と論文、主題と対象 ・主題の決め方
第3回	はじめての調べ方 ・主題や先行研究の「探し方」
第4回	方法論（調査設計） ・調査設計の重要性
第5回	研究計画書とプレゼンテーション ・研究計画書の書き方
第6回	構成と文書① ・パラグラフライティングの考え方
第7回	構成と文書② ・論文の構成表
第8回	注記と要約 ・レファレンスに必要な情報

第9回	研究計画 ・研究計画の立て方・進め方
第10回	復習テスト
第11回	研究計画書の発表① ・研究計画書へのフィードバック
第12回	研究計画書の発表② ・研究計画書へのフィードバック
第13回	研究計画書の発表③ ・研究計画書へのフィードバック
第14回	研究計画書の発表④ ・研究計画書へのフィードバック
第15回	研究計画書の発表⑤ ・研究計画書へのフィードバック

成績評価（基準と方法）	下記を基準に総合的に評価する。 ・レポート〔2回〕（目標2、目標4）80％ ・授業への取り組み〔リアクションシート〕（目標1、目標3、目標5）20％
教科書・参考書	教科書は使用しない。 参考文献等はその都度、必要に応じて紹介する。 【参考書】 小熊英二(2022)『基礎からわかる 論文の書き方』講談社 阿部幸大(2024)『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社
授業外学習課題	第1－15回 リアクションシートを作成する。 第1－15回 文献等を調べ、文献レビュー要約表を作成する。 第1－15回 文献等を調べ、研究計画書を作成する。
オフィスアワー	4月以降に掲示する。
備考	ノートパソコンを持参すること

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	15525016
講義名称	地域公衆栄養学実習
開講責任部署	健康栄養学部健康栄養学科
講義区分	実習
基準単位数	1.0
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
校地	池キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	単独
対象年次	3～
必選区分	選択

担当教員

氏名	所属
◎ 村井 詩子	健康栄養学科

履修における注意 点	地域公衆栄養学実習は，公衆栄養学を踏まえて実践へ向けた準備である。 生活環境に関する情報収集を積極的に行うこと。 公衆栄養プログラムの作成，発表はグループで協力し進めること。
資格・区分等	「管理栄養士国家試験受験資格必修」 地域共生推進副専攻指定科目（選択必修科目）
ディプロマ・ポリ シーとの関連性	記入不要
授業の概要	保健・医療・福祉・介護システムの中で，栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し，適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な技術を修得する。
達成目標（達成水 準）	1. 個人・集団の栄養問題を評価するために適した食事調査法を理解し，栄養アセスメントができる（35％）。 2. 集団の栄養摂取状況を分析し，評価することができる（35％）。 3. 栄養アセスメント結果を踏まえ，公衆栄養プログラムの企画・立案ができる（30％）。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション（実習スケジュール，実習内容の説明，実習先希望調査）
第2回	栄養調査法の特徴（食事記録法と食物摂取頻度調査）
第3回	栄養アセスメントの実際（栄養調査法の種類と方法、食事記録をもとに栄養素，食品群別摂取量の算出）
第4回	個人の栄養アセスメント（調査票の取り扱い、食事記録法の実施）
第5回	個人の栄養アセスメント（食事摂取基準2025）
第6回	個人の栄養アセスメント（アンケート作成，実施）
第7回	集団の栄養アセスメント（栄養摂取量データの分析）
第8回	集団の栄養アセスメント（集計，分析，グラフ作成，追加アンケートの作成）
第9回	集団の栄養アセスメント（データ分析，インターネットによる参考文献の検索）
第10回	集団の栄養アセスメント（データ分析，結果のまとめ）
第11回	集団の栄養アセスメント（結果をもとに健康教室等の企画・立案，追加アンケート調査）

第12回	公衆栄養プログラム（企画・立案）、および提案書の作成
第13回	公衆栄養プログラムのプレゼンテーション資料作成（パワーポイントを使用）
第14回	プレゼンテーションの発表と評価
第15回	プレゼンテーションの発表と評価
第16回	地域保健臨地実習に向けた課題制作

成績評価（基準と方法）	課題レポート提出（50％） プレゼンテーション（30％） 情報収集・分析能力（20％）により総合評価する。
教科書・参考書	教科書：「公衆栄養学」講談社（「公衆栄養学」の教科書を1冊も持っていない場合は購入すること） 参考書等：「公衆栄養学・栄養疫学実習」，建帛社，日本一の健康長寿県構想（高知県）リーフレット　など、講義内で適宜紹介する。
授業外学習課題	第1回　臨地実習希望調査 第2回　食事記録を作成する（連続した7日間）。 第3回　食物摂取頻度調査の入力，調査結果表の提出。 第4回　食事記録をもとに栄養価計算，食品群別摂取量結果をエクセルデータとして提出。 第5回　食事調査方法（食物摂取頻度調査と食事記録法）の違い，特徴についてのレポートを作成，提出。 第6回　個人の栄養アセスメント方法を復習し，データをまとめる。 第7回　実習先の保健所について調べる（パンフレットやホームページ等を活用）。各自、実習目標を決める。 第8回　匿名化したデータを用いて，集団の栄養アセスメントを行う。資料作成。 第9回　図書館やインターネットを活用して，文献検索し，データをまとめる。 第10回　匿名化したデータを分析し，集団の栄養アセスメントを行う。結果をまとめ報告書を作成する。 第11回　まとめた結果をもとに、健康教室等を企画・立案する。 第12回　企画についてプレゼンテーション資料を作成し、発表練習を行う。 第13回　プレゼンテーションの発表内容をもとに、企画書を作成し、提出する。 第14回　プレゼンテーションの発表内容をもとに、企画書を作成し、提出する。 第15回　各班ごとに臨地実習に向け，「課題」に沿った媒体を作成する。各自の実習目標に対して準備を行う。
オフィスアワー	授業終了後，随時。
備考	・「公衆栄養学」の教科書を持参すること。 ・各自実習ノートを作成する。新しく得た知識，情報など書き込むこと。

更新日時	2025/03/24 11:25:04
年度	2025
講義コード	11035016
講義名称	健康情報論実習
開講責任部署	健康栄養学部健康栄養学科
講義区分	実習
基準単位数	1.0
代表曜日	水曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	後期
校地	池キャンパス
科目区分	専門教育科目
授業方式	単独
対象年次	1～
必選区分	選択

担当教員

氏名	所属
◎ 村井 詩子	健康栄養学科

履修における注意点	高校時に習った確立・統計を復習しておくこと。わからない用語は、事前に各自で調べる。 エクセルの操作方法を習得しておくこと。
資格・区分等	管理栄養士国家試験受験資格必修
ディプロマ・ポリシーとの関連性	記入不要
授業の概要	テレビや雑誌，インターネットで流れている健康情報に関するエビデンスを確認する。 文献検索による情報収集の仕方を学ぶ。 文献から得られる情報について解説する。 身近な健康情報に関するデータを用いて，集団の栄養素摂取状況の特徴を捉え，評価法を学ぶ。
達成目標（達成水準）	1. 身近な健康情報を調べ，情報を収集することができる（15％）。 2. 収集した情報を客観的に整理し，特徴をグラフや表で示すことができる（25％）。 3. インターネットを活用し，文献検索，文献の入手など基本的なことができる（10％）。 4. 文献に記載されているグラフや表を読解できる（20％）。 5. 匿名化した栄養データを分析し，パワーポイントで特徴を表現することができる（30％）。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション 健康情報の入手方法について・インターネットによる文献検索
第2回	健康情報の測定方法（食事調査法等）
第3回	身近なデータの収集・測定方法（体重の変化，BMI，血圧等）
第4回	健康情報のデータ収集（pubmedを活用した文献検索，および文献の解釈と応用）
第5回	健康情報のデータ収集（エビデンスレベル）
第6回	健康情報の特徴（数量データ，質的データ）
第7回	数量データの特徴 ― 記述統計（グラフ，ヒストグラム等）
第8回	数量データの特徴 ― 記述統計（2変数の関連について散布図の作成，相関係数等）
第9回	質的データの特徴（アンケートのまとめ）
第10回	健康情報データの分析方法（推定と検定）

第11回	健康情報データの分析（演習）
第12回	プレゼンテーション資料の作成（得られた情報のまとめ、演習）
第13回	プレゼンテーション資料の作成（構成）
第14回	プレゼンテーション発表・評価
第15回	プレゼンテーション発表・評価

成績評価（基準と方法）	レポート・小テスト，授業態度（45％） データ処理（25％） パワーポイントによるプレゼンテーション（30％）より総合的に評価する。
教科書・参考書	教科書：「医療系のためのもっとやさしい統計学入門」，診断と治療社 参考書：講義中で紹介する。
授業外学習課題	第1回 インターネットで健康情報の文献を調べる。 第2回 身近な健康情報について調べる。pubmedを用いて提示したキーワードで文献を調べて和訳し，レポートを提出する。 第3回 自分の食事について調べる。 第4回 入手した健康情報について自分なりに読み解いて，レポートを提出する。 第5回 入手した健康情報データをエクセルに入力する。 第6回 数量データについて，平均値，標準偏差値，中央値を算出し，提出する。 第7回 数量・質的に関するアンケートを作成する。エクセルに入力する。 第8回 数量データをグラフで表す。散布図と相関係数について復習をする。 第9回 質的データをグラフで表現し，提出する。 第10回 数量データの検定について復習する。 第11回 質的データの検定について復習する。 第12回 分析結果をまとめる。 第13回 パワーポイントを作成する。 第14回 パワーポイントの発表練習を行う。
オフィスアワー	授業終了後，随時。
備考	授業では，演習を取り入れる。 レポート課題は，必ず提出すること。

5 履 修 規 程

(趣旨)

第1条 この規程は、学則第33条に基づき、本学の教育課程及び履修方法について必要な事項を定めるものである。

(履修方法等)

第2条 共通教養教育科目及び単位数並びに履修方法は、別表第1の1から5までに掲げるとおりとする。

2 専門教育科目及び単位数並びに履修方法は、別表第2から別表第5までに掲げるとおりとする。

3 前2項に定めるほか、授業科目の履修年次及び科目の選択にあたっては、原則として各学科が定める履修モデルに従うものとする。

4 学則第34条の表備考の規定により他学部及び他学科の授業科目を自由科目として履修しようとする者は、あらかじめ当該科目の担当教員の許可を得なければならない。

5 教職に関する専門教育科目及び単位数は、別表第6に掲げるとおりとする。

(授業計画)

第3条 各授業科目の実施は毎年度に定める授業計画表及び授業時間割によるものとする。

(他の大学等の授業科目等の履修)

第4条 他の大学等の授業科目等を履修し、修得した単位等の認定については別に定める。

(履修登録)

第5条 学生は、履修しようとする授業科目について、所定の期間内に履修登録をしなければならない。

2 前項の履修登録は、所定の手続きにより行うものとする。

(履修登録の変更及び中止)

第6条 履修登録後に授業科目の履修を変更又は中止する場合の手続きは別途定める。

(履修の制限)

第7条 履修しようとする各授業科目の授業が所定の履修時間数の3分の1をすでに超えている場合は、原則として新たに履修を始めることはできない。

(履修登録上限単位数)

第8条 1学期間に履修登録できる卒業に必要な単位数（以下「履修登録上限単位数」という。）は、24単位までとする。ただし、次に定める科目の単位数は、含めないものとする。

(1) 集中講義科目

(2) 資格取得科目のうち教務委員会が指定する科目

2 前項に定めるもののほか、履修登録上限単位数に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の修得)

第9条 授業科目の単位は、特別に定める場合を除いて分割して修得することができない。

第10条 修得した単位を取消したりその成績を更新したりすることは、認めない。

(教職・資格等に関する科目の履修方法)

第11条 教育職員免許状、栄養士免許証、管理栄養士国家試験受験資格、看護師国家試験受験資格、保健師国家試験受験資格、助産師国家試験受験資格、社会福祉士国家試験受験資格、介護福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格を得るための履修方法については、それぞれ別に定める。

2 本学が認定する資格等を得るための履修方法については、それぞれ別に定める。

(その他)

第12条 学則及びこの履修規程に定めるもののほか、単位数、履修方法等に係る細部に関しては別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 平成23年3月31日現在において県立大学の設置及び管理に関する条例（昭和28年条例第40号）に基づき設置された高知女子大学（以下「高知女子大学」という。）に在籍する学生が本学に在籍しなくなる日までの間の授業科目及び単位数について、廃止前の高知女子大学履修規程は、この履修規程の施行後も、なおその効力を有する。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（平成23年10月24日改正）

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年 3 月23日改正）

（施行期日）

- 1 この規程は、平成24年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 平成23年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数については、改正後の履修規程別表の規程にかかわらず、なお従前の例によることができる。
- 3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（平成26年 1 月28日改正）

（施行期日）

- 1 この規程は、平成26年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 改正後の履修規程第 8 条は平成26年度入学生から適用する。ただし、社会福祉学部及び健康栄養学部の平成26年度入学生については適用しない。
- 3 平成25年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数については、改正後の履修規程別表の規程にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 平成25年度以前に入学した者の授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（平成26年 3 月26日改正）

この規程は、平成26年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成26年 6 月27日改正）

（施行期日）

- 1 この規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 平成26年度以前に入学した者並びに平成27年度及び平成28年度に文化学部文化学科に編入学した者（夜間主を除く。）に係る授業科目及び単位数については、改正後の履修規程別表の規程にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（平成27年 1 月27日改正）

（施行期日）

- 1 この規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 平成26年度以前に入学した者並びに平成27年度及び平成28年度に文化学部文化学科に編入学した者（夜間主を除く。）に係る授業科目及び単位数については、改正後の履修規程別表の規程にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（平成27年 3 月24日改正）

この規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成28年11月 2 日改正）

（施行期日）

- 1 この規程は、平成29年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

- 2 平成28年度以前に入学した者及び平成29年度に文化学部文化学科に編入学した者に係る授業科目及び単位数については、改正後の履修規程別表の規程に関わらず、なお従前の例による。
- 3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（平成28年12月 1 日改正）

この規程は、平成29年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成29年 1 月 5 日改正）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年2月8日改正）

（施行期日）

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成29年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数については、改正後の履修規程別表の規程にかかわらず、なお従前の例による。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（平成31年1月31日改正）

（施行期日）

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成30年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数については、改正後の履修規程別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（令和2年1月23日改正）

（施行期日）

1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 平成31年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数並びに履修方法については、改正後の履修規程別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（令和3年2月18日改正）

（施行期日）

1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 令和2年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数並びに履修方法については、改正後の履修規程別表の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（令和3年12月23日改正）

（施行期日）

1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 令和3年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数並びに履修方法については、改正後の履修規程別表の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（令和4年1月19日改正）

（施行期日）

1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 令和4年度以前に入学した者及び令和6年度以前に文化学部文化学科に編入学する者に係る授業科目及び単位数並びに履修方法については、改正後の履修規程別表の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（令和6年1月25日改正）

1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 令和5年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数並びに履修方法については、改正後の履修規程別表の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

附 則（令和 6 年11月21日改正）

（施行期日）

1 この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 令和 6 年度以前に入学した者に係る授業科目及び単位数並びに履修方法については、改正後の履修規程別表の規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、地域学実習Ⅱの履修方法については、令和 6 年度に入学した者も適用する。

3 この規程による授業科目の読替えについては、教授会の議を経て学長が別に定める。

別表第1

共通教養教育科目及び単位数

1. リテラシー科目									
授業科目	単位数	文化学部		看護学部		社会福祉学部		健康栄養学部	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
英語コミュニケーションⅠA	2	4 単位		4 単位		4 単位		4 単位	
英語コミュニケーションⅠB	2								
英語コミュニケーションⅠC	2								
英語コミュニケーションⅠD	2								
英語コミュニケーションⅡA	1		2 単位 以上		2 単位 以上		2 単位 以上		2 単位 以上
英語コミュニケーションⅡB	1								
英語コミュニケーションⅡC	1								
英語コミュニケーションⅡD	1								
情報処理概論	2		1 単位 以上		1. リテラシー 科目（英語を 除く。）～6. 城学共生科目 （地域学概 論、地域学実 習Ⅰを除く） のなかから13 単位以上		1. リテラシー 科目（英語を 除く。）～6. 城学共生科目 （地域学概 論、地域学実 習Ⅰを除く） のなかから15 単位以上		1. リテラシー 科目（英語を 除く。）及び 2. データサイ エンス科目の なかから4 単 位以上
コンピュータリテラシー	1								
ビジネスリテラシー	2								
日本語表現法	2								

- 備 考
1. 外国語科目は、30時間をもって1単位とする。

2. 英語コミュニケーション科目より6単位以上を修得すること。

3. 英語コミュニケーション科目の必修4単位は「英語コミュニケーションⅠA」、「英語コミュニケーションⅠB」、「英語コミュニケーションⅠC」、「英語コミュニケーションⅠD」から2科目を選択して満たすこと。

4. 残りの2単位以上を「英語コミュニケーションⅠA」、「英語コミュニケーションⅠB」、「英語コミュニケーションⅠC」、「英語コミュニケーションⅠD」、「英語コミュニケーションⅡA」、「英語コミュニケーションⅡB」、「英語コミュニケーションⅡC」及び「英語コミュニケーションⅡD」から選択して満たすこと。ただし、単位修得済みの科目を履修することはできない。

5. 「英語コミュニケーションⅡA」、「英語コミュニケーションⅡB」、「英語コミュニケーションⅡC」、「英語コミュニケーションⅡD」の科目を履修するためには「英語コミュニケーションⅠ」の科目から2単位以上修得しておかなければならない。

6. 「情報処理概論」、「ビジネスリテラシー」及び「日本語表現法」は、30時間をもって2単位とする。

7. 「コンピュータリテラシー」は、30時間をもって1単位とする。

2. データサイエンス科目						
授業科目	単位数	文化学部		看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部
		選択	夜間主	選択	選択	選択
			選択			
ITリテラシー	2	2. データサイエンス科目、4. 課題別教養科目及び6. 城学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから2単位以上	2. データサイエンス科目、4. 課題別教養科目及び6. 城学共生科目（地域学概論を除く。）のなかから2単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 城学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから13単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 城学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから15単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）及び2. データサイエンス科目のなかから4単位以上
データサイエンス入門	1					
AI概論	2					
プログラミング基礎	2					

- 備 考
1. 「ITリテラシー」、「AI概論」、「プログラミング基礎」は、30時間をもって2単位とする。

2. 「データサイエンス入門」は、30時間をもって1単位とする。

3. 教養基礎科目

授業科目	単位数	文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部
		選択	選択	選択	選択
科学と人間	2	2 単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 13単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 15単位以上	6 単位以上
基礎化学	2				
基礎生物学	2				
社会調査基礎論	2				
日本国憲法	2				
法学	2				
政治学	2				
経済学	2				
倫理学	2				
哲学	2				
文学	2				
基礎ジェンダー学	2				
心理学	2				
心理学入門	2				
社会心理学基礎	2				

備 考

教養基礎科目は、30時間をもって2単位とする。

4. 課題別教養科目

授業科目	単位数	文化学部		看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部
		選択	夜間主	選択	選択	選択
			選択			
生活と社会福祉	2	2. データサイエンス科目、4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから2単位以上	2. データサイエンス科目、4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論を除く。）のなかから2単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 13単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 15単位以上	4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから5単位以上
現代生活論	2					
自然災害と防災の科学	2					
平和論	2					
現代人権論	2					
ジェンダーとキャリア	2					
労働と人権	2					
地域とグローバリゼーション	2					
家族関係論	2					
異文化理解海外フィールドワーク	2					
人権教育論	2					

備 考

1. 課題別教養科目は、30時間をもって2単位とする。ただし、「異文化理解海外フィールドワーク」は、90時間をもって2単位とする。

2. 「異文化理解海外フィールドワーク」の実施方法等については別に定める。

5. 健康・スポーツ科目

授業科目	単位数	文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部
		選択	選択	選択	選択
健康スポーツ科学Ⅰ	1	2 単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 13単位以上	1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 15単位以上	2 単位以上
健康スポーツ科学Ⅱ	1				
対人関係とメンタルヘルス	2				
健康とヘルスプロモーション	2				
栄養と健康	2				

備 考

- 「健康スポーツ科学Ⅰ」及び「健康スポーツ科学Ⅱ」は30時間をもって1単位とする。
- 「対人関係とメンタルヘルス」、「健康とヘルスプロモーション」及び「栄養と健康」は、30時間をもって2単位とする。

6. 域学共生科目

授業科目	単位数	文化学部				看護学部		社会福祉学部		健康栄養学部	
		必修	選択	夜間主		必修	選択	必修	選択	必修	選択
				必修	選択						
地域学概論	2	2 単位		2 単位		2 単位		2 単位		2 単位	
土佐の歴史と文化	2		2. データサイエンス科目、4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから2単位以上		2. データサイエンス科目、4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論を除く。）のなかから2単位以上		1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 13 単位以上		1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 15単位以上		4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 5 単位以上
土佐の経済とまちづくり	2										
土佐の自然と暮らし	2										
土佐の食と健康	2										
専門職連携論	2										
チーム形成論	2										
地域学実習Ⅰ	1	1 単位				1 単位		1 単位		1 単位	
地域学実習Ⅱ	1		2. データサイエンス科目、4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから2単位以上				1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 13 単位以上		1. リテラシー科目（英語を除く。）～6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 15単位以上		4. 課題別教養科目及び6. 域学共生科目（地域学概論、地域学実習Ⅰを除く。）のなかから 5 単位以上
域学共生実習	1										

備 考

- 「地域学概論」、「土佐の歴史と文化」、「土佐の経済とまちづくり」、「土佐の自然と暮らし」、「土佐の食と健康」、「専門職連携論」及び「チーム形成論」は、30時間をもって 2 単位とする。
- 「地域学実習Ⅰ」、「地域学実習Ⅱ」及び「域学共生実習」は、45時間をもって 1 単位とする。

別表第2

文化学部 文化学科 専門教育科目及び単位数

授業科目			単位数				授業科目			単位数				
			言語文化系/地域文化創造系		文化総合系（夜間主）					言語文化系/地域文化創造系		文化総合系（夜間主）		
			必修	選択	必修	選択				必修	選択	必修	選択	
文化学部 共通科目	リテラシー科目	基礎演習	1		1		言語文化系	国際文化領域	国際開発論		2		2	
		中国語基礎Ⅰ	左記のうち 1カ国語・2単位必修	1					国際文化専門演習Ⅰ		1			
		中国語基礎Ⅱ		1					国際文化専門演習Ⅱ		1			
		ドイツ語基礎Ⅰ		1				日本語学領域	日本語史		2			
		ドイツ語基礎Ⅱ		1					日本語音声学・音韻論		2			
		フランス語基礎Ⅰ		1					日本語学講読		2		2	
		フランス語基礎Ⅱ		1					日本語文章構成論		2		2	
		日本語Ⅰ		1					国語教育学講読Ⅰ		2			
		日本語Ⅱ		1					国語教育学講読Ⅱ		2			
		情報処理演習	1		1	日本語教育学概論				2				
		文献調査論	左記のうち 2単位必修	2	2				日本語教育教材論		2			
		基礎読書法		2	2				日本語学専門演習Ⅰ		1			
									日本語学専門演習Ⅱ		1			
	エッセンシャル科目	文化哲学	2			2	文化学部専門科目	日本文学領域	基礎古典		2		2	
		文化人類学	2			2			日本文学史（古典）		2			
		文化と権利	左記のうち 6科目12単位必修	2		2			日本文学史（近代）		2			
		文化と裁判		2		2			古典文学基礎講読Ⅰ		2		2	
		公共哲学		2		2			古典文学基礎講読Ⅱ		2			
		民俗学		2		2			古典文学講読Ⅰ		2			
		文化と経済		2		2			古典文学講読Ⅱ		2			
		日本文学概論		2		2			近代文学講読		2		2	
		言語学概論		2		2			現代文学講読		2		2	
		日本語学概論		2		2			中国文学史		2			
		グローバル平和論		2		2			中国文学講読（散文）		2		2	
		社会調査論		2		2			中国文学講読（韻文）		2			
		域学共生フィールドワーク	1						日本文学専門演習Ⅰ		1			
		文化学課題研究ゼミナールⅠ	1			1			日本文学専門演習Ⅱ		1			
		文化学課題研究ゼミナールⅡ	1			1			書道		2			
		文化学課題研究ゼミナールⅢ	1		1			地域文化創造系	地域文化領域	地域文化論		2		2
	文化学課題研究ゼミナールⅣ	1		1		日本思想史				2		2		
キャリア形成科目	キャリアデザイン論	2		2		日本文化論				2		2		
	キャリア形成論	2		2		地域文化資源論Ⅰ				2		2		
	企業実習		1			地域文化資源論Ⅱ				2				
						文化政策論				2		2		
文化学部 専門科目	言語文化系	英語学概論		2		2	地域文化領域			男女共同参画社会論		2		
		比較言語研究		2						地域防災論		2		2
		対照言語学		2						住文化論		2		
		言語教育実践論Ⅰ		2						地域文化専門演習Ⅰ		1		
		言語教育実践論Ⅱ		2						地域文化専門演習Ⅱ		1		
		英語文法論		2		2		地域づくり領域	地域づくり論		2		2	
		英語ライティングⅠ		2		2			地域産業論		2		2	
		英語ライティングⅡ		2					地域分析論		2		2	
		英語音声学		2					地方自治論		2		2	
		英語スピーキングⅠ		2					NPO論		2		2	
		英語スピーキングⅡ		2					地域づくりフィールドスタディ		2			
		英語学専門演習Ⅰ		1					地域づくり専門演習Ⅰ		1			
		英語学専門演習Ⅱ		1					地域づくり専門演習Ⅱ		1			
	国際文化領域	英文化・文学史		2			観光文化領域	観光文化論Ⅰ		2		2		
		英文化・文学論		2				観光文化論Ⅱ		2				
		米文化・文学史		2				景観文化論		2				
		米文化・文学論		2				観光と自然環境		2				
		異文化理解Ⅰ		2		2		観光文化フィールドスタディⅠ		2				
		異文化理解Ⅱ		2				観光文化フィールドスタディⅡ		2				
		異文化理解Ⅲ		2				観光フィールド専門演習Ⅰ		1				
		国際日本学		2		2		観光フィールド専門演習Ⅱ		1				
		比較日本学		2		2								
		国際関係論		2		2								

別表第2 （前頁のつづき）

授業科目			単位数			
			言語文化系/地域文化創造系		文化総合系（夜間主）	
			必修	選択	必修	選択
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光まちづくり領域	観光学総論	2		2
			観光まちづくり論Ⅰ	2		
			観光まちづくり論Ⅱ	2		
			観光産業論Ⅰ	2		2
			観光産業論Ⅱ	2		
			観光企画論	2		2
			観光まちづくりフィールドスタディⅠ	2		
			観光まちづくりフィールドスタディⅡ	2		
			観光まちづくり専門演習Ⅰ	1		
			観光まちづくり専門演習Ⅱ	1		
		現代法文化領域	文化と人権	2		2
			文化と統治システム	2		2
			社会秩序と法	2		2
			犯罪と法	2		2
			情報化社会と法文化	2		2
			地域社会と法文化	2		2
			現代法文化専門演習Ⅰ	1		
			現代法文化専門演習Ⅱ	1		
		生活法文化領域	生活と法文化	2		2
			災害と法	2		2
			ワーク・ライフ・バランスと法	2		2
			労働契約と法文化	2		
			社会保障と法文化	2		2
			家族関係と法文化	2		2
			生活法文化専門演習Ⅰ	1		
			生活法文化専門演習Ⅱ	1		

備 考

1. 単位の計算については、学則第28条の2の規定による。演習科目、実習科目、外国語科目（中国語、ドイツ語、フランス語、日本語）および 文化学課題研究ゼミナールについては、授業時間数30時間をもって1単位とする。
2. 別表第2に掲げる授業科目から、必修科目を含め、学部共通科目群から30単位以上（リテラシー科目群から6単位以上、エッセンシャル科目群から20単位以上、キャリア形成科目群から4単位以上）、専門科目群から40単位以上、計87単位以上を修得しなければならない。
3. その他履修に関することは別に定める。

別表第3

看護学部 看護学科 専門教育科目及び単位数

授業科目		単位数		備考	授業科目			単位数		備考	
		必修	選択					必修	選択		
専門基礎科目	医学の世界	1		a	看護基礎科目	看護学	生活と看護	1		a	
	生化学	1		c			生活援助論	2		a+d	
	栄養学	2		a			看護過程論	1		d	
	薬理学	1		c			援助関係論	1		d	
	微生物学	1		c			フィジカルアセスメント	1		d	
	人体の構造Ⅰ	1		c			治療援助論	2		a+d	
	人体の構造Ⅱ	1		a			症状と看護	1		a	
	人体の機能Ⅰ	1		c			看護援助の動向と課題		1	a	
	人体の機能Ⅱ	1		a			ふれあい看護実習	1		e	
	人体のしくみの乱れⅠ	1		c			看護基盤実習	3		e	
	人体のしくみの乱れⅡ	1		c			看護実践能力開発実習Ⅰ	1		e	
	心のしくみ	1		c	看護科目	看護管理学	看護システム論	1		c	
	診断学	1		c			看護サービス論	1		d	
	治療学総論	1		c			看護教育論		1	a	
	病態と治療Ⅰ	1		c			看護管理の動向と課題		1	a	
	病態と治療Ⅱ	1		c			チーム医療実習	1		e	
	病態と治療Ⅲ	1		a			看護管理実習	2		e	
	小児と疾患	1		c			看護臨床科目	急性期看護学	急性期看護論	1	
	公衆衛生学	1		a	急性期看護援助論	1				a	
	健康管理論	1		c	回復期看護援助論	1				a	
	保健統計学	2		b+c	急性期看護の動向と課題				1	a	
	疫学	2		a	急性期看護実習	2				f	
	地域保健政策	1		a	慢性期看護学	慢性期看護論		1		d	
	生命の科学と倫理		1	a		慢性期看護援助論		1		a	
	医療史		1	a		終末期看護援助論		1		a	
	社会保障と看護		2	a		慢性期看護の動向と課題			1	a	
	心理学と心理的支援		2	a		慢性期看護実習		2		f	
	看護科目	行動科学		2	a	老人看護学	老人看護学総論	老人看護学総論	1		a
		保健行動論		2	a			老人の健康と看護	1		a
		人間工学		1	a			老人看護援助論	1		d
		在宅医療		1	a			老人看護の動向と課題		1	a
		医療と経営		1	a		精神看護学	精神看護学総論	1		a
助産学			1	a	精神の健康と看護	1			a		
助産診断論			1	a	精神看護援助論	1			d		
看護基礎科目		看護学総論	1		c	看護基礎科目	看護学	精神看護の動向と課題		1	a
		人間と看護	1		a			精神看護実習	2		f
		健康と看護	1		a						
	環境と看護	1		a							
	看護研究方法論	1		d							
	看護哲学と倫理	1		d							

別表第3（前頁のつづき）

授業科目			単位数		備考	授業科目			単位数		備考
			必修	選択					必修	選択	
看	小児看護学	小児看護学総論	1		a	総	看護研究	3		d	
		小児の健康と看護	1		a		看護と政策	1		c	
		小児看護援助論	1		d		がん看護論	1		a	
		小児看護の動向と課題		1	a		総合看護実習Ⅰ	2		e	
		小児看護実習	2		f		総合看護実習Ⅱ	1		e	
護	母性看護学	母性看護学総論	1		a		家族看護実習		1	e	
		母性の健康と看護	1		a		看護実践能力開発実習Ⅱ	2		e	
		母性看護援助論	1		d		バイオロジカルナーシング		1	a	
		母性看護の動向と課題		1	a		治療と看護		1	a	
		母性看護実習	2		f		情報と看護		1	a	
臨	助産看護学	助産看護学総論		1	a	災害と看護		1	a		
		助産看護診断論		1	a	災害看護実践論	1		b		
		助産技術論Ⅰ		2	a	グローバル社会と看護Ⅰ	1		a		
		助産技術論Ⅱ		1	a	グローバル社会と看護Ⅱ		1	a		
		助産看護援助論		2	a	異文化理解看護フィールドワーク		1	d		
		助産看護管理論		1	a	看護地域フィールドワーク		1	f		
		助産看護の動向と課題		1	a	看護学の動向と課題		1	a		
		助産看護実習Ⅰ		7	f	看護セミナーⅠ		1	a		
	助産看護実習Ⅱ		1	f	看護セミナーⅡ		1	a			
	科	在宅看護学	在宅看護学総論	1		a	看護セミナーⅢ		1	a	
在宅看護対象論			1		a	看護セミナーⅣ		1	a		
在宅看護援助論			1		d	看護セミナーⅤ		1	a		
在宅看護リエゾン論				1	a	臨床看護論Ⅰ		1	a		
在宅看護の動向と課題				1	a	臨床看護論Ⅱ		1	a		
在宅看護実習			2		e	臨床看護論Ⅲ		1	a		
目			地域看護学	地域看護学総論	2		a	臨床看護論Ⅳ		1	a
	地域の健康と看護	2			a	臨床看護論Ⅴ		1	a		
	地域看護援助論	2			b	臨床看護論Ⅵ		1	a		
	地域看護の動向と課題			1	a	看護実践論Ⅰ		1	b		
	地域看護実習			2	f	看護実践論Ⅱ		1	b		
学校保健	学校保健		2	a	看護実践論Ⅲ		1	b			
	養護概説		2	a	看護実践論Ⅳ		1	b			
						医学と看護の統合		1	a		
						最新実践看護講座Ⅰ		1	a		
						最新実践看護講座Ⅱ		1	a		

備考

- 別表第3に掲げる授業科目のうちから、必修102単位を履修しなければならない。
- 備考欄の記号については、学則第28条に規定する1単位あたりの授業時間数を表す。
a 講義15時間、b 演習15時間、c 講義30時間、d 演習30時間、e 実習・実験30時間、f 実習・実験45時間。
- 「看護基盤実習」は、看護援助学と老人看護学の臨地実習内容を含む。

別表第4
社会福祉学部 社会福祉学科 専門教育科目及び単位数

授 業 科 目		単位数		備考	授 業 科 目		単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基本科目	福祉対象入門	1		a	ソーシャルワーク実践科目	ソーシャルワーク演習Ⅰ		1	c
	福祉援助入門	1		a		ソーシャルワーク演習Ⅱ		1	c
	社会福祉入門演習	1		c		ソーシャルワーク演習Ⅲ		1	c
	社会福祉基礎演習	1		c		ソーシャルワーク演習Ⅳ		1	c
	心理学と心理的支援		2	a		ソーシャルワーク演習Ⅴ		1	c
	社会学と社会システム		2	a		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		1	c
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2		a		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		1	c
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2		a		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		1	c
	社会福祉史	2		a		ソーシャルワーク実習Ⅰ		2	d
	介護技術		1	c		ソーシャルワーク実習Ⅱ		4	d
						ソーシャルワーク実習Ⅲ		2	d
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	2		a	事例研究法 実践記録法 チームアプローチ スーパービジョン				
	社会保障論Ⅱ	2		a					
	公的扶助論	2		a					
	障害者福祉論		2	a					
	児童・家庭福祉論		2	a					
	高齢者福祉論Ⅰ	2		a					
	高齢者福祉論Ⅱ	2		a	地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	2		a
	精神保健福祉の原理		4	a		地域福祉論Ⅱ	2		a
	精神保健福祉制度論		2	a		地域福祉活動		1	c
	福祉サービスの組織と経営		2	a		国際福祉論		2	a
	権利擁護論		2	a		コミュニティソーシャルワーク		1	c
	更生保護制度		2	a		福祉NPO論		2	a
	保健医療サービス	2		a		子育て支援論		2	a
	女性福祉論		2	a		虐待防止論		2	a
	医療福祉論		2	a	社会復帰支援科目	ケアマネジメント論		2	a
						ケアマネジメント演習		1	c
						ケアプラン策定法		1	c
からだといこころの理解科目	医学概論		2	a		精神障害リハビリテーション論		2	a
	精神医学Ⅰ		2	a	精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習Ⅰ		1	c
	精神医学Ⅱ		2	a		精神保健福祉援助演習Ⅱ		2	c
	精神保健学Ⅰ		2	a		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		1	c
	精神保健学Ⅱ		2	a		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		2	c
	発達と老化の理解Ⅰ		2	a		精神保健福祉援助実習Ⅰ		4	d
	発達と老化の理解Ⅱ		2	a		精神保健福祉援助実習Ⅱ		3	d
	認知症の理解Ⅰ		2	a	介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ		4	a
	認知症の理解Ⅱ		2	a		介護の基本Ⅱ		4	a
	障害の理解Ⅰ		2	a		介護の基本Ⅲ		4	a
	障害の理解Ⅱ		2	a		コミュニケーション技術		2	c
	こころとからだのしくみⅠ		2	a		生活支援技術Ⅰ		2	c
	こころとからだのしくみⅡ		2	a		生活支援技術Ⅱ		2	c
ソーシャルワーク基礎科目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2		a		生活支援技術Ⅲ		3	c
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2		a		生活支援技術Ⅳ		2	c
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2	a		生活支援技術Ⅴ		1	c
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2	a		介護過程Ⅰ		2	a
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		2	a		介護過程Ⅱ		2	a
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		2	a		介護過程Ⅲ		2	a
	ソーシャルワークの理論と方法（精神）		4	a		介護過程Ⅳ		4	a
	面接技法		2	a	介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ		1	c
	医療ソーシャルワーク論		2	a		介護総合演習Ⅱ		1	c
						介護総合演習Ⅲ		1	c
						介護総合演習Ⅳ		1	c
						介護実習Ⅰ		3	e
						介護実習Ⅱ		3	e
						介護実習Ⅲ		4	e
						医療的ケアⅠ		4	a
総合科目						医療的ケアⅡ		1	c
					福祉研究法入門 社会福祉調査の基礎 社会福祉専門演習Ⅰ 社会福祉専門演習Ⅱ 社会福祉専門演習Ⅲ 社会福祉専門演習Ⅳ		2		a
							2		a
							1		c
							1		c
							1		c
							1		c

- 備 考
- 別表第4に掲げる授業科目のうちから、必修38単位・選択56単位以上を履修しなければならない。
 - 備考欄の記号については、学則第28条に規定する1単位あたりの授業時間数を表す。
a講義15時間、b講義30時間、c演習30時間、d実習・実験30時間、e実習・実験45時間。
 - 厚生労働省の規程により、相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ、介護総合演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの評価を受ける資格は、実施授業時間の5分の4以上の出席をもって与えられる。

別表第5

健康栄養学部 健康栄養学科 専門教育科目及び単位数

授業科目		単位数		備考	授業科目		単位数		備考
		必修	選択				必修	選択	
基礎科目	健康栄養学基礎	2		a	応用 栄養学	応用栄養学Ⅰ	2		a
	健康栄養学応用	2		a		応用栄養学Ⅱ		2	a
社会・環境と健康	地域健康論	2		a		応用栄養学実習		1	e
	介護論	2		a	栄養 教育論	ライフステージ栄養学		2	a
	食と介護	1		e		栄養教育論Ⅰ	2		a
	保健医療福祉論		2	a		栄養教育論Ⅱ	2		a
	地域医療論		2	a		栄養教育論Ⅲ		2	a
	公衆衛生学	2		a		栄養教育論実習Ⅰ		1	e
	環境衛生学実習		1	e		栄養教育論実習Ⅱ		1	e
	健康情報論実習		1	e		学校栄養指導論Ⅰ		2	a
人体の構造と機能の成り立ち	生化学Ⅰ	2		a	臨床 栄養学	学校栄養指導論Ⅱ		2	a
	生化学Ⅱ		2	a		臨床栄養学Ⅰ	2		a
	生化学実験		1	e		臨床栄養学Ⅱ		2	a
	人体の構造と機能Ⅰ	2		a		臨床栄養学Ⅲ		2	a
	人体の構造と機能Ⅱ		2	a		臨床実践栄養学		2	a
	臨床医科学		2	a		臨床栄養学実習Ⅰ		1	e
	疾病論Ⅰ	2		a	公衆 栄養学	臨床栄養学実習Ⅱ		1	e
	疾病論Ⅱ		2	a		公衆栄養学Ⅰ	2		a
	運動生理学		2	a		公衆栄養学Ⅱ		2	a
	生体科学実験・実習		1	e		地域公衆栄養学実習		1	e
食べ物と健康	食品学	2		a	給食 経営 管理論	給食経営管理論	2		a
	食品学実験Ⅰ		1	e		給食計画論		2	a
	食品学実験Ⅱ		1	e		給食経営管理実習Ⅰ		1	e
	食材学		2	a		給食経営管理実習Ⅱ		1	e
	食品の栄養素と機能	2		a	総合演習	管理栄養士総合演習Ⅰ		2	a
	食品衛生学	2		a		管理栄養士総合演習Ⅱ		2	a
	食品衛生学実験		1	e	臨地 実習	給食経営管理臨地実習		1	e
	フードシステム学		2	a		臨床栄養学臨地実習Ⅰ		1	e
	調理学	2		a		臨床栄養学臨地実習Ⅱ		1	e
	調理学実習Ⅰ	1		e		地域公衆栄養学臨地実習		1	e
	調理学実習Ⅱ	1		e		地域実践栄養学臨地実習		1	e
	調理学実習Ⅲ		1	e	キャリア 関	企業実習		2	e
	調理科学実験		1	e		健康栄養フィールドワーク		1	e
						HACCP管理論		1	a
基礎 栄養学	基礎栄養学	2		a	課題研究	国際食品安全学		2	a
	基礎栄養学実験	1		e		卒業研究	4		e

備考

- 別表第5に掲げる授業科目のうちから、必修46単位、選択48単位以上、合計94単位以上を履修しなければならない。
- 備考欄の記号については、学則第28条に規定する1単位あたりの授業時間数を表す。
a 講義15時間、b 講義30時間、c 演習30時間、d 実習・実験30時間、e 実習・実験45時間。

高知県立大学教務委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、高知県立大学教学本部規程第9条に規定する教務委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学全体の教育方針に関すること
- (2) 学部間の教育方針の調整に関すること
- (3) 教育課程の構成並びに学科目の種類、編成及び履修方法に係る調整、企画立案、運営及び実施に関すること
- (4) 試験及び卒業の要件に関すること
- (5) 他大学との単位互換に関すること
- (6) 共通教養教育に関する基本方針及びその他共通教養教育に関する事項
- (7) 教職課程に関する基本的方針及びその他教職課程に関する事項
- (8) その他本学の教育課程に必要とされる事項

2 委員会は、前項の事項に関して審議した内容を自己点検・評価しなければならない。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
 - (2) 第7条によって設置される各専門委員会の長
 - (3) 第8条によって設置される各学部教務委員会の長
- (任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合は、当該委員の選出方法に従って選出し、その場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、教務部長をもって充てる。
- 3 副委員長は、委員の互選によって選出する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 5 副委員長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第6条 委員長は、会議を招集し、議長となる。

- 2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させることができる。

(専門委員会)

第7条 委員会は、共通教育専門委員会及び教職課程専門委員会を設置し、共通教養教育及び教職課程の企画運営に関する審議事項につき、委任することができる。

- 2 前項に定めるもののほか、委員会が第2条第1項に定める事項を審議するため必要と判断するときは、当該事項に関する専門委員会を設置することができる。
- 3 専門委員会に関する事項は、本規程に定めるもののほか、委員会において定める。

第8条 第2条第1項各号所定の事項のうち、学部固有の事項に関しては、学部教務委員会において審議する。

2 学部教務委員会に関する事項は、本規程において定めるもののほか、各学部において定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、教育・学生支援部において処理する。

附 則

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第3条及び第5条第2項の規定にかかわらず、本規程施行後最初に設置される委員会の委員長は、学長が指名する。
- 3 高知県立大学の最初の教務部長の任期は、第4条第1項の規程にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年9月24日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

高知県立大学教務委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、高知県立大学教学本部規程第9条に規定する教務委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 大学全体の教育方針に関すること
- (2) 学部間の教育方針の調整に関すること
- (3) 教育課程の構成並びに学科目の種類、編成及び履修方法に係る調整、企画立案、運営及び実施に関すること
- (4) 試験及び卒業の要件に関すること
- (5) 他大学との単位互換に関すること
- (6) 共通教養教育に関する基本方針及びその他共通教養教育に関する事項
- (7) 教職課程に関する基本的方針及びその他教職課程に関する事項
- (8) その他本学の教育課程に必要とされる事項

2 委員会は、前項の事項に関して審議した内容を自己点検・評価しなければならない。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
 - (2) 第7条によって設置される各専門委員会の長
 - (3) 第8条によって設置される各学部教務委員会の長
- (任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合は、当該委員の選出方法に従って選出し、その場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、教務部長をもって充てる。
- 3 副委員長は、委員の互選によって選出する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 5 副委員長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議)

第6条 委員長は、会議を招集し、議長となる。

- 2 会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要に応じて委員以外の者を会議に出席させることができる。

(専門委員会)

第7条 委員会は、共通教育専門委員会及び教職課程専門委員会を設置し、共通教養教育及び教職課程の企画運営に関する審議事項につき、委任することができる。

- 2 前項に定めるもののほか、委員会が第2条第1項に定める事項を審議するため必要と判断するときは、当該事項に関する専門委員会を設置することができる。
- 3 専門委員会に関する事項は、本規程に定めるもののほか、委員会において定める。

第8条 第2条第1項各号所定の事項のうち、学部固有の事項に関しては、学部教務委員会において審議する。

2 学部教務委員会に関する事項は、本規程において定めるもののほか、各学部において定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、教育・学生支援部において処理する。

附 則

- 1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第3条及び第5条第2項の規定にかかわらず、本規程施行後最初に設置される委員会の委員長は、学長が指名する。
- 3 高知県立大学の最初の教務部長の任期は、第4条第1項の規程にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年9月24日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

大学等名	高知県立大学	申請レベル	応用基礎レベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）	申請年度	令和8年度

取組概要

<プログラムの目的>

本プログラムは、各学部のディプロマ・ポリシーに基づき、学生が数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を土台として、自らの専門分野の中でそれらを活用できるようになることを目的とする。各学部の専門性を踏まえ、文化・地域、医療・看護、福祉、健康などに関わる情報やデータを適切に読み取り、課題を見だし、分析し、考察し、必要に応じてAIやプログラミングも活用しながら解決へとつなげる力を育成する。

<身に付けられる能力>

- ・ 情報化・ネットワーク化が社会に及ぼす影響を理解し、情報社会を批判的に判断する力
- ・ 情報社会やデジタル技術の将来像を構想する力
- ・ データサイエンスの考え方に基づいて課題を把握・整理する力
- ・ 確率・統計の基礎を理解し、データを要約・可視化する力
- ・ 基礎的・発展的なデータ解析を実践し、結果を適切に解釈する力
- ・ AIの基本概念、歴史的背景及び主要技術を理解する力
- ・ AIの社会的影響、倫理的課題及び応用可能性を多面的に考察する力
- ・ 生成AIの活用方法を理解するとともに、その利便性とリスクを踏まえて適切に活用する力
- ・ 数理・データサイエンス・AIを自らの専門分野の課題解決に応用する力

<開講されている必須科目の構成及び修了要件> 下記4科目（合計7単位）を修得すること。

科目名	単位数	履修年次
ITリテラシー	2	1年次～
データサイエンス入門	1	1年次～
AI概論	2	2年次～
プログラミング基礎	2	2年次～

<実施体制>

プログラムの運営責任者：西内 章（教務部長・社会福祉学部 教授）
プログラムを改善・進化させるための体制及び責任者：教務委員会／西内 章（教務部長・社会福祉学部 教授）
プログラムの自己点検・評価を行う体制及び責任者：教務委員会／西内 章（教務部長・社会福祉学部 教授）